

小川淳也

衆議院議員

なぜ、民主党政権は失望につながったのか。 ～その次の闘いに向けて～



新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。何故とても反省点の多かった昨年、大変ご迷惑ご心配をおかけし、心苦しく、申し訳なく思つておりました。何故民主党政権は失望につながったのか、講演録を題材に私なりの考え方をまとめさせていただきました。是非お目通りいただけますと大変幸いに存じます。これまで以上に若手の責任は大きい。その自覚を深め今年も全力で取り組みたいと思いますが、まず簡単に自己紹介をしたいと思います。

私は香川県高松市生まれで、今年四十歳になります。実家はパーム屋で三人兄弟の長男です。父親から「大きくなったら、世の中の役に立て」と言わされて育ちました。そのときに「政治家というのはロクなもんじゃない。間違つてもそういう者に影響されない立派な官僚になって、世の中の役に立て」と言われました。それをまともに信じて、大学を卒業してから自治省（当時）に入省し、地方自治体での勤務も含め約十年、官僚として務めました。

その間に感じたことは、父親の言つていたことが半分は正しいが半分は間違っていたということです。政治家がダメなのはそのとおりですが、官僚が立派だというのは違うと。優秀であることは間違ひありませんが、世の中とか社会、国の役に立とうといふよりも、自分の組織や権限、予算あるいはOBの天下り先を守ることが最優先になつてゐる。そこが間違つていると。しかし問題なのは、国家の経営陣たるべき政治家が、しっかりと官僚に向かうと方向を与えるべきではないことであり、やはり政治家がしっかりと官僚を守らなければならない、ということに行き着きました。日本には絶対に政権交代が必要で、それによって政治にまともな競争環境をもたらさないかぎり、政治は真剣に国民に向き合わないし、怠慢や横暴もなくならないと考えました。

そこで私は官僚を辞め、民主党を選択して、〇三年の総選挙に立候補し落選、〇五年の郵政選挙で幸いにも比例区で当選、約四年間野党議員として七十回余りの国会

政権交代でしか 変えられなかつたこと

質問をし、昨年の総選挙ではじめて選挙区で当選させていただきました。そして古巣である総務省で政務官を務めさせていただいたのです。

こういう経歴の人間の視点からの、皮膚感覚も含めた新政権の一年三ヶ月あまりをお話しさせていただきます。

特別会計の事業仕分けでも話題となりました交付税特別会計の隠れ借金、33兆円、この償還はずっと先送りされ続けていましたが、担当政務官としてこの償還にこだわり、23年度に向けては1000億円の返済につながりました。毎年1000億円ずつ返しても300年かかる計算になりますが、それでも武士の一分ではありませんが、意を示し矜持を大切にすべきである、政府の中にあつてそれを主張しました。

地方税制については、租税特別措置を大幅に見直しました。租税特別措置というのは国、地方あわせて六百項目くらいあって、地方分が約三百です。だいたい二、三年ごとに期限が来ます。期限が来ると、各業界は役所や与党に頭を下げて陳情し、延長を勝ち取る。この繰り返しをやつています。参勤交代ではありませんが、一、三年ごとに陳情させて恩を売り、票とカネを得る。租税特別措置がすべてそうだとは言いませんが、権力掌握の強力なツールになつてゐるわけです。これは当然痛みを伴いますが見直そうと決心しました。

地方分が約三百項目と申し上げました。二、三年ごとに期限が切れますから、昨年期限が来たのは百弱でした。私は当初より、これを半減させるという目標を立てて取り組み、結果として四十七項目廃止しました（条件つきも含め）。これは画期的なことだと言われています。長年当たり前のように続いてきたことですから、政権が変わらなければとても廃止できなかつたし、また担当政務官としての強い意思を持たなければできなかつたことだらうと思います。お陰様で23年度に向けても約50項目が廃止され、この流れは既に決定的なものとなつています。

地方行政の分野では、地域主権改革法（中面につづく）

政権交代の期待に答えられてゐるか